

# 彩雲

通巻 131号

## 「思いを行動に」



校長 江尻 巧

“君の「やりたい」がここにある。”今年度このキャッチコピーを全校集会や各種行事の際、合言葉のように生徒と唱和してきました。また、このコピーを用いた本校のポスターや学校案内も、若さあふれる出来栄えと様々な方から評価をいただいています。私は、高校生活で生じる問題や課題、情報発信の多くを、高校生自身に主体的に取り組んでほしいとかねがね思ってきました。校則やいじめの問題など身近なところから始まり、徐々に社会の問題に目が向くことを期待していました。今、地域課題探究による授業や生徒会活動意識の高まりなどにより、本校は変革の時期を迎えています。キャッチコピーを前面に押し出し、躍動感あふれる学校としてグレードアップするチャンスです。

今年1月、インターハイに出場したアイスホッケー部の全校応援を行いました。生徒会を中心に応援団も組織し、スティックバルーンを両手に熱狂的に応援する姿が随所でみられました。アイスホッケー部の生徒はもちろん、一人ひとりの生徒にとって清水高校への帰属意識を高める取組になったはずです。受験勉強でも部活動でも、一人の取組ではあまり効果が上がらないと言われていきます。他者とのつながりの在り方が、個々の取組の成果を左右するのです。目標に向かうエネルギーは、時に他者からもらい、時に他者に与えるものです。清水高校としての学校力向上により、各自の試行錯誤がこれまで以上に盛んとなり、確かな力を身に付けてくれることを期待して止みません。夢に向かって羽ばく清高生に幸多いことを願っています。



【第25回卒業証書授与式】



【答辞卒業生代表 3年A組西村大聖さん】



【送辞在校生代表 2年A組大谷空さん】

# 【アイスホッケー部 全国大会出場】

令和6年1月18日(木)～23日(火)の日程で第73回全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会(青森県八戸市)は25チームの出場で幕を開けました。本校アイスホッケー部も24年連続24回目の出場を果たし、悲願の日本一を目指し青森県八戸市に向かいました。1回戦の軽井沢高校との対戦は22-0の大差で清水が大差で完封勝利し、続く2回戦の法政大学高校・早稲田実業連合との試合も20-2の大差で勝利しました。準々決勝は関東の雄、埼玉栄との対戦でした。序盤は相手に粘られたものの、その後はパワープレーのチャンス等を確実に決めるなど、試合を優位に進め6-3で勝利し、10回目の4強入りを果たし準決勝に駒を進めました。同日、準決勝で駒大苫小牧と対戦し、第2ピリオドまでは互角の戦いをしていましたが、第3ピリオドに入り集中力を欠き、連続失点し相手に主導権を握られてしまいました。今回も北海道選手権大会の決勝で敗れた相手に雪辱を果たすことはできませんでした。優勝(日本一)こそできなかったものの、天明海太主将を中心に、3年生はコツコツ努力を積み重ねた結果、全国大会(インターハイ)第3位という輝かしい成績を収めることができました。この結果は我々選手、スタッフだけでなし得たものではありません。これもひとえに清水町アイスアリーナをはじめ、日頃から素晴らしい環境で練習をさせて頂いているお陰だと感じています。また、多くの方々からたくさんの応援メッセージが届いておりました。学校のパブリックビューイングで応援して下さった全校生徒の皆さんと先生方、そして、地元でライブ放送等で応援して頂いた町民や卒業生の皆様および関係者の方々にご場をお借りして感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。 【監督 高橋 仙人】



【体育館でのパブリックビューイングの様子】

## 【3月】

- 18日(月) 合格発表
- 20日(水) 春分の日
- 22日(金) 終業式・離任式

## 今後の行事予定

23日(土)～学年末・学年始休業(4月7日まで)

## 【4月】

8日(月) 着任式・始業式・入学式